レスパイト入院のご案内

【ご利用いただける方】

- ◆ 在宅医から要請がある方
- ◆ 介護保険によるショートステイ利用が困難な方
- ◆ 在宅で医療管理が必要な方
  人工呼吸器使用や在宅酸素療養中、経鼻・胃瘻等による栄養管理、インスリンの管理
  人工肛門管理、褥瘡処置、痰吸引などが必要な方
- ◆ 定期透析を行っている方
- ◆ その他、ご相談・ご要望に応じて対応いたします

【入院日数・間隔など】

- ◆ 入院日数：原則　3 日～ 10 日間
- ◆ 入院間隔：原則最終利用日から 3 ヶ月
- ◆ 入院日：土日祝日、主治医の不在日を除く平日　　（入院：10 時頃　退院：10 時頃）

【入院までの流れ】

- ◆ ご利用希望日の 2 週間前までに、患者サポートセンター（055-226-3135 直通）へ
  申し込みをお願いします。申込書は、患者サポートセンターに用意してありますので、
  必要時はお申し出ください。甲府共立病院ホームページからもダウンロードできます。
  ＊緊急時もできる限り対応いたします。まずは、電話にてご相談ください。
- ◆ 申し込み後、２つの地域包括ケア病棟判定会議で入院を検討し、申込者へ連絡いたします。

患者サポートセンターより

甲府共立診療所のご案内

診療科：内科・甲状腺外科・乳腺外科・泌尿器科
整形外科・心臓血管外科・耳鼻科・小児科
皮膚科・眼科

甲府共立診療所（代表）055−221−1000
（平日・受付時間内・小児科発熱者対応問い合わせ先）
電話での対応時間　9：00 ～ 17：00

甲府共立病院のご案内

診療科：外科・肛門外科・産婦人科・精神科
緊急患者対応

※精神科は、完全予約制です。現在、新患の受け入れは中止しております。

甲府共立病院　（代表）055−226−3131
（緊急受診患者・発熱者対応問い合わせ先）
24 時間電話相談可

●診療科は、日によって変動がありますので詳細はお問い合わせください●

●医療機関からの紹介・相談対応は、患者サポートセンターにて承ります●
直通 **055-226-3133**　FAX 055-221-0006
［対応時間　月～金 9：00 ～ 17：00　土曜日 9：00 ～ 13：00］

●入院中の患者に関する退院支援等の問い合わせ●
直通 **055-226-3135**　［対応時間　月～金 9：00 ～ 17：00　土曜日 9：00 ～ 13：00］

【休診】木曜日の午後･土曜日の午後・第 4 土曜日･日曜･祭日・5 月1日・年末年始（12 月 29 日～ 1 月 3 日）

入院までの流れ

受付　地域連携室に保険証･紹介状をご提示ください
→ **診察**　紹介外来担当医師の診察を受けます
→ **相談**　患者様と入院の具体的な内容を確認します
→ **説明･処置**　看護師が入院の説明、必要な処置を行います
→ **入院**　病棟のベッドが用意できるまでお待ち頂く事があります

① 患者様の氏名
② 生年月日
③ 病名・病態
④ ADL 状況
⑤ 認知症の有無

病状によっては、甲府共立診療所で診察を行うこともあります。スムーズな入院受け入れのため、右記のような情報をお尋ねしますのでご了承ください。

編集・発行　甲府共立病院　患者サポートセンター

日本医療機能評価機構　認定病院　甲府共立病院　Kofu-Kyoritsu hospital

Regional Medical Liaison Office
News and magazine

地域連携だより

地域の皆様が安心して治療が受けられるように

目次

P2	8 階病棟の医療活動について
P2	新 X 線 CT 装置の導入
P3	レスパイト入院について
P4	レスパイト入院のご案内
p4	患者サポートセンターよりお知らせ

2022
11
November

公益社団法人　山梨勤労者医療協会

8 階病棟の医療活動について

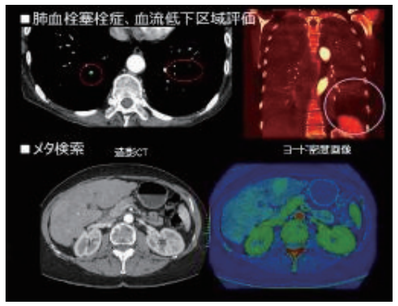
看護師長
和知 えり子

当院の 8 階病棟は、総合診療科・小児科・整形外科等の混合病棟です。2020 年 4 月より新型コロナウイルス協力医療機関として一部の急性期病床を閉鎖し、疑似症患者の受け入れを開始しました。2022 年 8 月、新型コロナウイルス感染症の流行拡大に伴い、県内の医療体制は逼迫しました。そのため、当病棟は重点医療機関として陽性者の受け入れを開始することとなり、急性期病棟の一部を閉鎖し病室に陰圧器を設置しコロナ陽性患者の受け入れを開始しました。8 階に勤務する看護師だけでなく、院内や当法人内から支援を受けながら日々の医療活動を行っています。

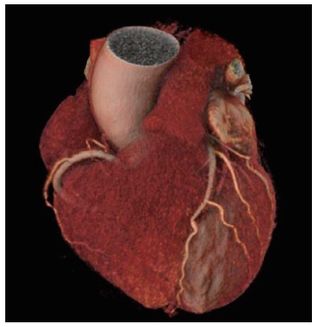
陽性者を受け入れるにあたり、感染管理認定看護師、感染制御チーム、院内新型コロナ対策本部と共に感染対策を強化しました。職員は改めて感染防護具の着脱習得など感染対策を学び直し、患者さんが安心して快適に療養できるよう準備をし、医療・ケアを行っています。今後も行政や周囲の医療機関と連携し、地域のご要望に耳を傾け医療活動を行っていきたいと思います。

12月初旬当院に新X線CT装置（GE社製のRevolution Frontier）を導入します

Dual Energy 技術の一例
（造影部分の更なる可視化）



Snap Shot Freeze2.0の活用
（冠動脈描出の高精細化）



この X 線 CT 装置の特徴を大きく 3 つ紹介します。

① Dual　Energy 技術の活用

新たに臨床応用された技術であり、これにより造影剤を低減しながら今までの画質を担保でき、金属アーチファクトのさらなる低減、整形領域での CT では判別が難しかった骨挫傷や新鮮骨折の同定、ヨード密度画像による診断の確信度向上、STAT 画像への反映など、多くの機能があり今後の可能性は無限大です。

② 冠動脈 CT 検査の更なる高精細化

心臓領域では、Snap Shot Freeze2.0 という特殊技術を使用することで従来では精細な画像描出が厳しいとされてきた不整脈や高心拍症例に対し動きの少ない画像を提供できるようになりました。また、循環器医師・健診センターと連携しての心臓ドックや、今後導入を予定している FFRCT に関しても、高い精度で画像を提供できることが期待できます。

③ 更なる被ばく低減

逐次近似再構成の適切な使用により、医療被ばく低減施設として更なる被ばく低減を探求します。ますます身体に優しい検査を実現します。

レスパイト入院について

地域包括ケア病棟師長
武藤 有香

地域包括ケア病棟師長
岩瀬 千佳

甲府共立病院は、「貧富の差によって生命の尊さが差別されてはならない」を基本理念に、「地域の人々、医療・福祉機関と連携し、いつでも誰にでも安心・安全な医療・福祉を目指します」を理念とし、2 次救急病院として救急外来の機能を果たし、急性期病棟・産婦人科病棟（183 床）、地域包括ケア病棟（100 床）で地域医療を守る医療の提供に奮闘しています。

今回は地域包括ケア病棟の地域医療を守る取り組みを紹介します。

当院の地域包括ケア病棟は 2016年4 月からスタートし、現在 100 床のベッドを有しています。これまで当院において急性期を経過した患者さんの受けれや高度急性期病院の後方支援（ポストアキュート）を主として行ってきました。

2021 年度より在宅・介護施設等からの患者であって症状の急性憎悪した患者さんの受け入れ（サブアキュート）の強化と地域連携の推進を積極的に果たして行くため、レスパイト入院を開始しました。

レスパイト入院については地域のみなさまや地域包括支援センター、介護支援専門員、病院・開業医等へ広報活動を行い、みなさまのご支援とご協力により、2021 年 4 月から 2022 年 9 月末現在までで 40 件の相談を受け、半数の方の入院を受け入れました。利用しなかった方の内訳は、相談のみの方やコロナ禍のため一旦キャンセルしたいというものでした。

一部になりますがレスパイト入院をご利用された方の事例を紹介します。

Aさん

長年、在宅用人工呼吸器を使用している息子とヘルパーを利用しながら在宅生活を送っています。私の休息のためレスパイト入院を利用しました。

休息がとれ、身体も心も楽になりました。また利用したいです。

Cさん

高齢の父は透析と毎食前血糖測定の結果でインスリン投与を行っています。そのため、私は長時間留守にすることが出来ません。

今回、医療管理を行ってもらえるレスパイト入院を知り、3 日間利用しました。父も私も安心してゆっくりすることができました。

Bさん

老々介護に加え、疾病により 1 日の大半をインスリンの入った中心静脈栄養の点滴を行い常に血糖コントロールが必要で訪問看護を利用し、在宅生活を継続しています。

私が治療のため入院することになりましたが、医療依存度が高くショートステイは利用できません。主治医である開業医の先生からレスパイト入院を紹介してもらい利用しました。安心して自分の治療ができました。

Dさん

私が急遽入院となりました。年末年始ですぐに利用できるショートステイがみつからず、レスパイト入院を利用しました。

利用するまでは離れることが不安だったけど、利用して良かったです。

Eさん

在宅用人工呼吸器を利用している兄を私が 20 年以上在宅で介護しています。これまで入院もほとんどなく離れたことがありません。しかし、私も高齢になり介護疲れも出てきました。レスパイト入院について訪問看護師さんから提案があり関心はありました。不安が強かったのですが訪問看護師さんは、少しでも私の負担を軽減し、これからも長く在宅で療養するためにはレスパイト入院を定期的に利用できたらと考えてくれていました。病棟師長さんと患者サポートセンター師長さんが自宅訪問してくれ兄の個別のケア方法と私の不安を聞いてくれたことで不安が解消されレスパイト入院にふみきれました。次の利用も決めました。

このように在宅介護をされている介護者の休息をはじめ、病気や怪我、出産、旅行、冠婚葬祭など家庭の事情により一時的に在宅介護が困難となる場合の介護者のサポートなど、幅広い患者さんを受け入れています。これからも住み慣れた地域で、患者さんやご家族が笑顔で安心して暮らせるよう、在宅生活を続けながら「ときどき入院」のサポートと患者さんの意思決定支援を重視した運営を努力していきます。